

資料2 スキルアップ研修配布資料

- 研修詳細プログラム
- 「広葉樹林での整備活用及び安全管理について」
(森林・山村多面的機能発揮対策群馬県地域協議会)
- 「森林環境の保全と資源の有効活用を目的とした林業の推進」
(みなかみ町森林活用協議会)
- 「Linkers (リンカーズ) の活動紹介」(リンカーズ)
- 地域協議会からの話題提供 (静岡県グリーンバンク)
- 地域協議会からの話題提供「安全対策と資源活用について」
(長崎森林・山村対策協議会)
- グループワーク 1～4 記録シート
スキルアップ研修アンケート用紙

研修詳細プログラム

7月23日(水)

予定時刻	時間	項目
13:40		開場・受付開始
14:00		開会
14:00-14:10	10分	ごあいさつ・研修全体の趣旨説明
14:10-15:25	75分	座学（説明60分・質疑応答15分） 【講師】群馬県地域協議会 熊谷様 【内容】 1. 広葉樹林を対象とした整備・活用について 2. 広葉樹林での活動における安全管理について
15:25	10分	トイレ休憩 休憩時間中に机の配置を変えます。
15:35-16:50	75分	グループワーク1（議論55分・発表20分） 1. 広葉樹林を対象に活動を行う活動組織を指導するにあたって日頃の悩み・課題 2. 上記課題への対処方法 3. 工夫点
16:50	10分	24日の現地研修についての事務連絡等
17:00		閉会
17:00-18:00	60分	ご希望の地域協議会対象に林野庁個別相談会 ※同じ相談会を3日目にも行います。希望者多数の場合は分散とスムーズな進行にご協力ください。 また、相談会と併行して、事務局が後片付けを行っています。
18:00		会場閉鎖 ※施錠します。17:59までに退場厳守をお願いいたします。

7月24日(木)

予定時刻	時間	項目
08:30		高崎駅東口バス乗り場 ヤマダ電機前に集合 ※詳しい場所等のご案内は pp. 5-6 をご参照ください。 事務局の者が出欠を確認し、順次ご乗車。
08:45	75分	バス発車 → みなかみ町内に向けて移動
10:00頃		みなかみ町中央公民館着 3F会議室に移動・トイレ利用
10:10頃	30分	座学 広葉樹整備・利活用の取組紹介 【講師】 みなかみ町森林活用協議会 田村様 リンカーズ 小池様 【内容】 みなかみ町森林活用協議会 (10分) ・みなかみ町森林活用協議会について ・みなかみ町における広葉樹整備・利活用の取組 リンカーズ (10分) ・リンカーズの概要と活動経緯 ・これまでの活動実績とこれから
10:40-11:00	20分	トイレ利用・バス乗車・点呼・発車 → リンカーズ様現場に向けて移動
11:00-11:30	30分	バス降車 → 施業現場まで歩きます ※事務局の者がヤマビル防除スプレーを持っています。降車後、各自の足元に噴霧してください。
11:30-11:50	20分	現地研修 【講師】 リンカーズ 原澤様 【内容】 リンカーズ活動内容紹介 (座学の補足・質疑など) ・具体的な森林整備の内容紹介 ・質疑応答
11:50-12:00	10分	伐倒現場へ移動
12:00-12:40	40分	伐倒実演 【講師】 地域協議会指定アドバイザー 星野様 【内容】 ・広葉樹の伐倒方法 ・ナラ枯れ等の枯損木の伐倒方法や留意点 ・質疑応答
12:40-13:10	30分	バス待機場所まで歩きます

予定時刻	時間	項目
13:10-13:25	15分	バス乗車・点呼・発車 → 道の駅 たくみの里に向けて移動
13:25-14:00	35分	道の駅 たくみの里着 各自昼食・トイレ休憩
14:00-14:15	15分	バス乗車・点呼・発車 → 小林産業(株)様に向けて移動
14:15-15:15	60分	現地研修 【案内】リンカーズ 原澤様 【内容】小林産業(株)様の製材工場を見学
15:15-15:30	15分	バス乗車・点呼・発車 → みなかみ町中央公民館に向けて移動
15:30-16:15	45分	グループワーク2 (議論30分・発表なし) 【内容】現地研修の振り返り・意見交換 1. 自都道府県で生かせること 2. 生かすために解決しなくてはならない課題
16:15-16:30	15分	広葉樹の加工品を見学・撮影、トイレ利用
16:30-17:40	70分	バス乗車・点呼・発車 → 高崎市に向けて移動
17:40頃		高崎市駅東口に到着・解散

7月25日(金)

予定時刻	時間	項目
08:40		開場・受付開始
09:00-09:05	5分	開会
09:05-09:25	20分	<p>話題提供（各10分）</p> <p>【お話】 静岡県グリーンバンク 長谷川様 長崎森林・山村対策協議会 佐藤様</p> <p>【内容】 広葉樹林の整備・活用、交付金活動全般、モニタリング調査や安全管理に係る活動組織への指導内容、課題や工夫点</p>
09:25-10:45	80分	<p>グループワーク3（議論60分・発表20分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森林整備全般、安全管理、書類・手続き事務その他について、活動組織を指導するにあたって日頃の悩み・課題 2. 上記課題への対処方法 3. 工夫点
10:45	10分	トイレ休憩
10:55-11:45	50分	<p>グループワーク4（フリーディスカッション50分・発表なし）</p> <p>本交付金に関して他地域の意見や事例を聴きたい事柄</p>
11:45	10分	アンケート記入
11:55-12:00	5分	主催官庁よりごあいさつ
12:00		閉会
12:00-13:00	60分	<p>ご希望の地域協議会のみ、居残って林野庁に個別相談会</p> <p>※相談会と併行して、事務局が後片付けを行っています。</p>
13:10		<p>参加者退場時刻</p> <p>※<u>厳守</u>をお願いいたします。</p>



広葉樹林での整備活用 及び安全管理について

令和7年7月23日

森林・山村多面的機能発揮対策
群馬県地域協議会

トピック

I 里山林活性化による多面的機能発揮対策(以後「多面的事業」)で広葉樹林を進めるには

- 1 広葉樹林を整備する意義と活動組織の思惑の整理
- 2 広葉樹林の目標林型
- 3 資源活用を進めるには

II 活動組織の安全対策

- 1 なぜ安全を意識しないのか
- 2 安全対策の入口
- 3 広葉樹整備での安全対策

I-1 広葉樹林を整備する意義と活動組織の思惑の整理

生活圏に近い森林(里山林)では

広葉樹林=(認識)手つかずの天然林 ⇒ “自然”のままがいい



(現実)人為でつくられた“二次林”がほとんど

⇒人の手が入って維持された森林(整備が必要)

何が起きているか

・人との距離が遠ざかっている

⇒資源としての価値の変化

・利用されていた頃と比較して、森林資源が充実?

⇒大径化、巨木化(近隣への倒木リスク)

⇒竹や常緑低木などの藪化(視界不良、野生鳥獣の住みか)

⇒**広葉樹林も整備は必要としている**

活動組織の思惑

群馬県の傾向(問い合わせを含め)

- 森林整備目的:地域課題解決をきっかけに
- 資源確保目的:本業や趣味に使う“モノ”がほしい
- 活動が目的:社会貢献、、、



⇒森林を良くしたいのか。自身の欲を満たすために森林と使うのか。

⇒**多面的事業との整合。すり合わせが必要**

活動組織とのすり合わせ

活動組織(候補含む)との対話

- ①活動する森林は決まっていますか。現地で話しましょう。
⇒問い合わせのふりいがけ。できること、できないこと。
- ②交付金は、森林整備を進めるためにある！！
⇒目標とする森林(目標林型)はどんな姿か。
- ③そのためにどんな活動をする？
⇒3カ年計画への落とし込み、4年目以降の活動意思。
- ④整備効果をどうやって数値にする？
⇒モニタリングの方法を検討。

I-2 広葉樹の目標林型

おおよそこの5パターン

易

- ①景観の良い森林
- ②レクリエーション利用の森林
- ③資源利用するための森林
- ④かく乱された森林の再生
- ⑤天然林への回帰、希少種保全
生物多様性のための森林

難



① 景観の良い森林

整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・林床の下刈・つる切 ・倒木、枯損木の処理 ・不要木の淘汰(低木常緑樹) ・将来木(残したい木)の選木と周辺間伐 	
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・林内及び周辺の明るさ確保 ・散策などの利用促進 ・防犯 ・野生鳥獣との緩衝帯 	
難点	<ul style="list-style-type: none"> ・何を、どこまでと明確な決まりが無い ・なぜ整備するか理由付け ・資源活用をどうクリアするか 	
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・見通し調査 ・相対幹距比 ・(材積管理) 	

② レクリエーション利用の森林

整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・林床の下刈・つる切 ・適度な倒木の処理 ・枯損木、危険木の除去 ・作業歩道の整備 	
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童でも歩きやすい林内 ・見通しが良くなり、引率者の視認性向上 ・危険因子(草類、ハチなど)の早期発見 	
難点	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション利用者との合意形成 ・特定の植物を中心に設定すると難易度は高い(その植物の生育に適した環境づくり) 	
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・見通し調査 ・相対幹距比 	

③ 資源利用するための森林

整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・有用樹種、下層植生の調査 ・林床の下刈、つる切 ・落ち葉掻き、芽掻き ・間伐、不要木除去と搬出 ・運搬のための作業道整備
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・有用樹種の保育、収穫 ・山菜などの生育に適した日照環境 ・資源の確保
難点	<ul style="list-style-type: none"> ・目的とする樹種を将来にわたって育成できるか ・山菜などの生育に適した環境づくりの難易度 ・資源により、獣害との闘い
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・見通し調査 ・相対幹距比 ・材積管理



④ かく乱された森林の再生

整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・被害木の調査 ・除伐、つる切 ・枯損木、倒木の除去 ・伐採木の搬出、運搬 ・作業道の開設、補修
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・危険木の除去 ・二次災害の防止（倒木の滑落など） ・病虫害被害の防除
難点	<ul style="list-style-type: none"> ・偏心木など、伐倒難易度が高い ・効果の測定方法 ・被害木の処理方法 ・行政等の復旧計画が無い
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・見通し調査 ・被害木の本数管理 ・材積管理



⑤天然林への回帰、希少種保全、生物多様性のための森林

整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植生の調査 ・地拵え、植付 ・下刈、つる切 ・除間伐、不要木除去 ・管理や作業のための歩道整備 	
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・植生の多様化 ・希少種の保護 ・外来生物の淘汰 	
難点	<ul style="list-style-type: none"> ・効果が見えるまでの時間 ・専門的知識を必要とする ・苗木調達の適合性(種の保存) ・希少種の盗掘 ・資源活用をどうクリアするか 	
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・植生回復調査 ・本数管理 ・改植面積による達成度 	

I-3 資源利用を進めるためには

広葉樹林整備から得られる資源



①収入源としての資源利用

自らの周辺にニーズがあるか

誰も必要としないもの・・・資源ではない

森林所有者との合意形成

資源は誰のものか・・・売上の分配、収支報告

制約の有無

手続きの確認・・・保安林、放射線量



②自らの資材としての資源利用。

【どんな時に検討するか】

- ・ニーズの開拓が困難な場合
- ・所有者から資源持ち出し(販売)の同意が得られない場合

【方法】

- ・歩道整備などの資材
- ・自団体や協力団体のクラフト材料
- ・自身で楽しむキノコ原木、山菜



Ⅱ-1 なぜ安全を意識しないのか

①無知ゆえに

人は知らないことに、ほとんど意識はいかない。

まずは自らの置かれる環境を理解

- ・どんな危険があるのか
- ・なぜ危険なのか
- ・災害リスクの重さ
- ・林業のプロでも災害が多い事実



②自信過剰

自分はプロ並みにチェーンソー技能が上手いという思い込み

安全講習を開くとこんな人がいます。

「基本なんてつまらないから省略でいいよ」

「俺のチェーンソーはこんなにデカイ」

「クサビなんか使わなくても余裕だよ」



- ・基本は何度学んでも、足りることはない
- ・自らの技量を客観的に評価
- ・機械の能力を自身の実力とっていませんか

③責任意識欠如

×余暇活動なのだから、自己責任で好きにやってよい
(興味やあこがれが原動力となり、本能的に行動)

○活動組織という団体としての責任ある行動
(リスクと必要性を比較して、活動のルール化)

- ・安全責任者としての代表、役員の位置づけ
- ・一つの事故が、多面的事業全体に影響
- ・事業者ではないから労働安全衛生法は無関係なのか
- ・事故が起きたときに家族は自己責任と納得するか



Ⅱ-2 安全対策の入口

【基本】

- ①安全装具着用の徹底
- ②作業手順、基本動作の理解
- ③危険行為、禁止行為の回避
- ④道具、機械の構造、特徴理解
- ⑤活動地(地形)、作業対象(樹木)の認識
- ⑥外的要因の認識(接近構造物など)

【自主活動】

- ①活動準備段階での危険予知(危険の洗い出し、リスク低減)
- ②作業前点検、ミーティング(危険予知、機械点検、体調確認)
- ③作業計画(無理ない作業時間設定、作業中止基準)
- ④安全講習の計画(自分たちで何が必要か考える)



(自主活動)リスクアセスメントによるリスクの低減

作業種	危険の洗い出し	各種上段の「危険要因の洗い出し」については以下による			可能性	重大性	評価
		～するとき	～して	～(事故の型)なる			
事例1	危険の洗い出し	伐倒するとき	後ろから交差していた別の木が倒れてきて	下敷きになる	×	×	5
		どうする低減対策	①伐倒前に周辺だけでなく、上部の状況を確認する ②事前にかかっている木をチルホールで引くなどして処理する。		○	△	2

作業内容	伐倒作業	被災者	80代 男性
状況	<p>アカマガシワ 胸高直径: 40cm 樹高: 15m</p> <p>幹が交差して 挟まった</p> <p>伐倒木に引き 込まれて傾き、 元で裂けて倒 れる</p> <p>マテバシイ 胸高直径: 12cm 樹高: 10m</p> <p>2m</p> <p>広葉樹整備において、アカマガシワを被災者が伐倒したところ、その後方2mで幹が交差していたマテバシイが倒れ、下敷きとなり被災。</p>		
受傷状況	頭蓋骨骨折、脳挫傷、肺気胸。 事故5日後事故に起因したとみられる多臓器不全で死亡。		分類 激突され

リスク評価表

可能性	重大性		
	極めて重大 ×	重大 △	軽微 ○
かなり起こる ×	5	4	3
たまに起こる △	4	3	2
殆ど起こらない ○	3	2	1



参考: 林業・木材製造業労働災害防止協会HP

(自主活動)安全講習の計画

【方法】

- ・外部講師の活用(独自、アドバイザー活用)
- ・内部講師の活用(安全作業、救命講習)
- ・地域協議会開催の講習会参加



(自主活動)安全講習の計画

【教材】

- ・無料教材の活用



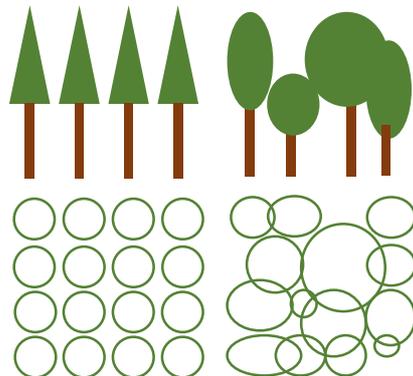
全林協



Ⅱ-3 広葉樹整備での安全対策

①森林構造上の難易度

針葉樹人工林



広葉樹二次林



- ・規則的に植栽された針葉樹人工林と違い、萌芽更新等で形成された広葉樹二次林は樹冠構造が複雑に重なる
- ・倒す木も周辺の木も枝が発達しているから、かかり木リスク大
- ・倒す空間と樹冠の大きさ、二つの空間認識が必要

②材の性質の違いによる伐倒リスク

記事No.37

裂け上がり

広葉樹の伐採で追い口を入れたときに幹が裂け上がり、伐倒木の下敷きになり骨折した

災害概要

▶ 発生地：岐阜県上野市 ▶ 発生月：2月 ▶ 伐倒回数：1回 ▶ 被害：不審

▶ 発生原因：再発 ▶ 被害状況：骨折 ▶ 作業内容：広葉樹の伐採

発生状況

伐倒作業中に、追い口を入れた際に、広葉樹の幹が裂け上がり、伐倒木の下敷きになり骨折した。原因は、広葉樹の幹が裂け上がり、伐倒木の下敷きになり骨折した。



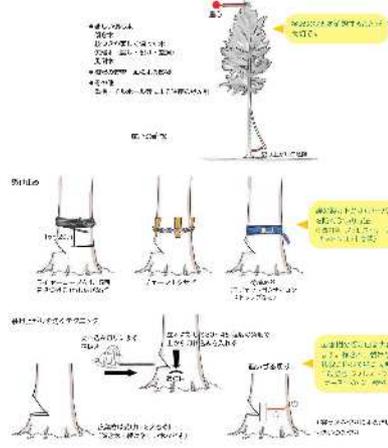
原因

裂け上りの原因

再発防止対策

● 広葉樹の伐採作業は、追い口を入れた際に、広葉樹の幹が裂け上がり、伐倒木の下敷きになり骨折した。原因は、広葉樹の幹が裂け上がり、伐倒木の下敷きになり骨折した。

● 裂け易い樹種
● 追い口を入れた際に、広葉樹の幹が裂け上がり、伐倒木の下敷きになり骨折した。原因は、広葉樹の幹が裂け上がり、伐倒木の下敷きになり骨折した。



災害の防止対策 (事前準備)

・裂け易い樹種をテープを巻いておく

(伐倒時)

・伐倒前にロープ等を用いて追い口の上部に5回程度強く巻きつける。
・追いヅル切りによる伐倒を用いる。

【裂け易い樹種】

ホウノキ ナラ カシ サクラ
ミズキ クルミ シイ
ウリハダカエデ アベマキ
ハマセンダン シオジ セン
ケヤキ クリ キハダ ミズメ
ウダイカンバ ヤチダモ
ハンノキ カラスザンショウ
ネムノキ ケンポナシ 等

出典：林野庁HP災害事例から学ぶ再発防止対策



伐倒のかんどころは、
当県のアドバイザーが明日実演します

ユネスコエコパークのまち

群馬県みなかみ町

森林環境の保全と資源の有効活用
を目的とした林業の推進



利根川源流のまち「みなかみ」

群馬県で一番広い 781.08km²
(群馬県の1/8)



町の人口(令和7年1月 現在)

- ・総人口 16,923人
- ・男性人口 8,334人
- ・女性人口 8,589人
- ・総世帯数 7,934世帯

(人口 17位/35市町村)
(人口密度31位/35市町村)

毎年
300~400人
減少



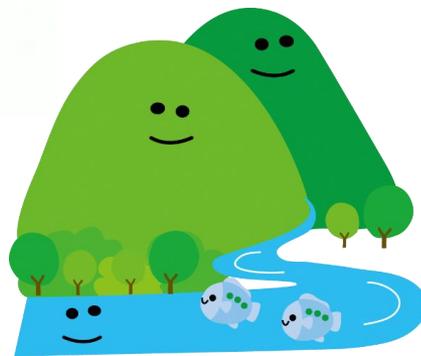
田んぼや畑
24.82 km²
町の面積の約3%



宅地
6.88 km²
町の面積の約1%



原野
11.10 km²
町の面積の約1%



森林
701.03km²
町の面積の
約90%

その他 37.25km²
町の面積の5%

利根川の源流 (約3千万人の命と暮らしをささえる)





登録エコパーク みなかみ

利根水源の環境評価

共生推進、誘客に期待



国連教育科学文化機関（ユネスコ）は14日、フランス・パリで審議中の第29回人間と生物圏（MAB）計画国際調整理事会で、日本ユネスコ国内委員会が推薦した「みなかみエコパーク」を生物圏保存地域（エコパーク）に登録することを決めた。首都圏の生活を支える利根川の水源や希少な鳥類が生息する森林環境などが世界的に貴重と評価された。自然との共生推進の継続とともに、知名度向上に伴う誘客への期待も高まっている。

「みなかみエコパーク」は、町全域と県境の新潟県魚沼市、南魚沼市、湯沢町にまたがる総面積約9万1300haの区域。利根川源流域や谷川岳など長期的に保護する「核心地域」、エコツーリズムなどに利用する「緩衝地域」、人が暮らし、自然と調和した発展を目指す「移行地域」の3エリアで構成される。

国内のエコパークは、「南アルプス」（山梨、長野、静岡）をはじめ、「みなかみ」と同時に推薦された「祖母・傾・大崩」（大分、宮崎）などと合わせて9地域となる。本県関係では、1980年に登録された「志賀高原」（長野、群馬）に続き2地域目。国内委員会は昨年8月、町の申請を受けて推薦を決定。ユネスコの諮問委員会が今年5月にエコパークに承認することを勧告していた。

（みなかみ町提供）

世界自然遺産とユネスコエコパークのちがい

どちらもユネスコが認定する

自然を守ることを目的とした世界のモデルだが・・・

◎世界自然遺産（1972年スタート）

特色ある手つかずの自然そのものを認定しそれを守っていく。

◎ユネスコエコパーク（1971年スタート）

特色ある生態系を守るだけでなく、それらを持続的に活用する人々のくらしまでを一体的に認定し、それを守っていく。

自然と人間が共生する環境を次世代へと繋げていくことを目的として設立された制度
現在、国内では10か所が登録されている。

みなかみ町の森林の状況

町の面積 78,108ha (群馬県の約1/8)

森林面積 70,103ha (面積の約90%)

国有林56,664ha 民有林13,439ha



※資料:令和2年度群馬県森林林業統計書

国有林 8割	人工林	8,181ha	針葉樹	7,307ha
			広葉樹	874ha
	天然林	39,612ha	針葉樹	7,721ha
			広葉樹	31,891ha
その他	8,871ha			
民有林 2割	人工林	33% 4,391ha	針葉樹	4,358ha
			広葉樹	33ha
	天然林	65% 8,775ha	針葉樹	81ha
			広葉樹	8,694ha
その他	2% 273ha			

POINT 民有林の 約3分の2が天然林(里山林)

みなかみ町と自伐型林業

民有林の約3分の2を占める天然林



以前は住民の生活を支え、多くの恵みをもたらしてきた里山林と呼ばれる森林。しかし近年は人の手が入らず、本来の機能が果たせない状態へ・・・

ユネスコエコパークの登録を目指す過程で森林が持つ価値や可能性に改めて気づく。そして自伐型林業と出会う。

森林環境を保全しながら、その資源を可能な限り有効に活用する。長期的な視点に基づいた持続可能型林業。



自然環境をまもり、資源を活かし、その恵みを次世代に繋ぐ
＝ユネスコエコパークの理念

「自伐」に取り組む 担い手・人材の育成

みなかみ町自伐型林業研修(2016年度～)

自伐型林業に関心のある方(森林所有者、林業をやってみみたい方など)を対象に自伐型林業研修を開催。

○チェーンソー取扱研修

- ✓チェーンソーの取扱技術を習得(ほとんどが初めての取扱い)
- ✓テキストによる座学と町内の山林などで実技講習
- ✓受講者には「チェーンソー取扱技能特別教育修了証」を発行



○選木・伐倒研修

- ✓森林や立木の状況を見て、どの木を間伐するか、どの木を残すかの「選木」を学ぶ
- ✓自分ならどのような山林にしたいかをイメージ
- ✓受講者全員が講師の指導を受けながら立木を伐倒



○作業道開設研修

- ✓自伐型林業で最も重要となる作業道開設について研修
- ✓受講生全員が重機を運転し、作業道の作り方を学ぶ
- ✓路線選定の考え方、ヘアピンカーブの施工、土留工作成、抜根などの手法



○造材・集材・搬出研修

- ✓伐倒した木を、市場等で取り扱う規格にする「造材」を学ぶ
- ✓「林内作業車」の取扱方法を学び、「集材」の方法を習得
- ✓受講生全員で協力し、木材を近くの土場まで搬出



その結果、現在までに200名を超える方が受講

自伐型林業の推進

2021年3月 自伐の活動を行う団体と町で組織される
「みなかみ森林活用協議会」 設立

協議会の目的（協議会規約より抜粋）

みなかみユネスコエコパークの理念に基づき、美しい里山景観、豊かな森林環境の形成に向けた森林の適正な利活用の推進

現在の登録会員数 16団体 約130名

自伐型林業推進や町産木材の利用促進を中心的に担っている。

自伐型林業への支援(その1)

①森林・山村多面的機能発揮対策補助金

国の交付金(森林・山村多面的機能発揮対策交付金)への上乗せ補助

メインメニュー

- ・ 里山林保全活動 最大:120千円/ha→160千円/ha
- ・ 侵入竹除去、竹林整備活動 最大:285千円/ha→380千円/ha
- ・ 森林資源利用タイプ 最大:120千円/ha→160千円/ha

サイドメニュー

- ・ 森林機能強化タイプ 最大:800円/m→2,000円/m

②林業関連安全講習等受講費補助金

自伐型林業に必要な安全講習や技能講習の受講経費に対する補助

- ・ 対象者: 町内自伐型林業団体の構成員
- ・ 対象講習: 車輛系建設機械(小型含)、小型移動式クレーン、玉掛け、他
- ・ 補助額: 受講経費の2分の1以内

自伐型林業への支援（その2）

③ 資機材の貸与

町が所有している資機材等

- ・ 林内作業車/薪割機/竹、木材小型破碎機
軽架線キット、チルホール、スリング、ワイヤー 等



④ スキルアップ研修等の実施、安全講習の情報提供

- ・ 活動を行ううえで必要となる高度な技術や知識等を学ぶためのフォローアップ、スキルアップ研修の実施
- ・ 各地で開催される安全講習等に関する情報提供
- ・ 対象者： 自伐型林業団体の構成員
過去に自伐型林業研修に参加した方



自伐型林業の実績値（参考）

森林整備面積（令和6年度実績）

※森林・山村多面的機能発揮対策補助金交付実績

森林整備面積 21.4ha（9団体）

出荷量（令和6年度実績）

※協議会を通じて連携企業等へ出荷されたもの

家具用木材出荷量 40m³

販売用薪出荷量 7,091束（約120m³）

※森林整備面積及び出荷量ともに協議会が把握できる範囲の実績数値であり、各団体もしくは個人が独自に取り組んでいるものは含まれていない

オークヴィレッジ株式会社（岐阜県高山市）との包括連携協定

2018年 林業の六次産業化及び地域活性化を目指し、包括的連携協定を締結。

みなかみ町が推進する「自伐型林業」の過程で伐り出される広葉樹をオークヴィレッジが活用し製品づくりと市場への販売を行う。

これにより、町内の森林整備を推進し、さらに地域材を活用した林業の六次産業モデルの確立を目指していく。

みなかみユネスコエコパーク 森林を育む広葉樹産業化プロジェクト

～環境・産業・地域を繋ぐ新しい事業モデルの創出～



 みなかみ町 ×  Oak Village.



(株)カインズとのパートナーシップ協定

CAINZ

2022年9月14日
株式会社カインズ

カインズ初の取り組み みなかみ町と 「利根川源流の森林資源有効活用パートナーシップ協定」を締結

株式会社カインズ(本社:埼玉県本庄市、代表取締役社長 CEO:高家 正行)は、9月14日(水)にみなかみ町(群馬県)と「利根川源流の森林資源有効活用パートナーシップ協定」を締結したことをお知らせします。



株式会社カインズ 販売本部 部長の植木俊行(左)と、みなかみ町 副町長 宮崎育雄様

本協定は、「SDGs未来都市計画(2022~2024)~水と森林と人を育むみなかみプロジェクト 2030~」を掲げるみなかみ町のビジョンにカインズが賛同し実現したものです。利根川源流の森林と水を守り、生かし、広める役割を持つみなかみ町の新たな林業の発展に向けたパートナーとして、事業活動を通じて経済・社会・環境の価値を創造する取り組みを行います。森林資源の有効活用に関する協定を締結するのは、カインズとしてもみなかみ町としても初めてです。

カインズは、2021年10月に策定した「くみまち構想」において、「環境」と「地域産業振興」を、日本の地域やくらしが抱える様々な課題を分類した「くみまち15の共創価値領域」の1つとして位置づけています。「環境」分野においては、2050年までのカーボンゼロ(CO2 排出量実質ゼロ)実現にむけた目標を策定し、カインズのある「まち」のカーボンゼロ達成にも貢献していくことを目指しています。「地域産業振興」分野においては、店舗内に地元の農家や飲食店が特産品や商品を販売する場所を無料で提供する「いいものマルシェ」を開催するなど、地域振興の取り組みを始めています。

みなかみ町は、「木材の伐倒から利用まで一貫した林業の六次産業化」を掲げており、自伐型林業を実践するグループ数、構成員数を増加させる施策として、自伐型林業の担い手育成と就業機会の創出、広葉樹の商品化とみなかみ木材のブランド化に着手しているほか、木材ステーション(仮称)における出荷量の増加させる施策として、自伐型林業により搬出された木材を安定的に流通経路に乗せ、経済的価値を生み出すことに取り組んでいます。また、自伐型林業グループによる森林整備面積の増加施策として、山林マッチング制度構築や自伐型林業拠点の整備といった取り組みも行っていきます。

■本協定の内容

本協定において、カインズが取り組むのは、以下の4項目です。

- ① 間伐材を利用した薪をカインズ店舗網で販売。収益の一部を自伐型林業育成の基金として還元
- ② 自社チャネルを使用した、みなかみ町が推進する「自伐型林業の担い手」増加のための告知活動
- ③ みなかみ町木材ステーション運営に関わるノウハウの提供および、子ども向け教室の運営、コミュニティづくりのノウハウ提供
- ④ 山林環境保全等に係る活動の実施

■カインズが店舗において取り組む具体的施策

みなかみ町にあるカインズスーパーセンター月夜野店がハブとなり、自社物流で群馬県の4店舗(カインズ沼田モール店、カインズスーパーセンター前橋吉岡店、カインズ前橋みなみモール店、カインズ伊勢崎店)に間伐材を利用した薪を配送。カインズスーパーセンター月夜野店をはじめとする5店舗で薪の売り場を提供し、売り上げを林業従事者に還元。カインズの販売力を活用し、林業を支援します。

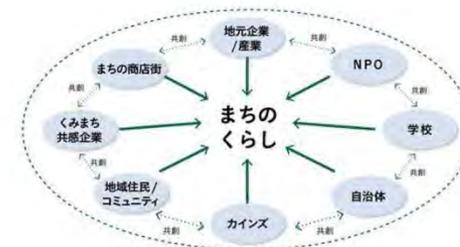


みなかみ町の森林と林業従事者



店頭での販売イメージ

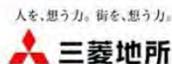
<「くみまち構想」について>



「まちのくらしをみんなでDIY。」

創業以来、「商業を通して社会の発展に貢献する」ことを志し、それぞれの店舗が、それぞれの地域の皆様のくらしに寄り添いながら事業活動を行っている、カインズならではの構想です。店舗とそこで働くメンバー(従業員)がハブとなり、それぞれの地域における困りごとや関心、ニーズに丁寧に耳を傾け、くらしに携わる様々なステークホルダーと協働/共創することで、人々が自立し、共に楽しみ、助け合える、「一人ひとりが主役になれる「まち」(≒地域社会)」の実現を目指します。

三菱地所・日本自然保護協会・みなかみ町の連携協定



2023年3月1日

報道関係各位

三菱地所株式会社
群馬県みなかみ町
公益財団法人日本自然保護協会

国内初、企業版ふるさと納税を活用し 群馬県みなかみ町でネイチャーポジティブに向け 新たな活動を始動 三菱地所・みなかみ町・日本自然保護協会の3者で連携協定を締結

公益財団法人日本自然保護協会（以下「日本自然保護協会」）は、群馬県みなかみ町（以下「みなかみ町」）で、ネイチャーポジティブ^{※1}を目指した新たな活動を始動します。これに伴い、三菱地所株式会社（以下「三菱地所」）、群馬県みなかみ町、日本自然保護協会の3者で、2023年2月27日に、10年間の連携協定を締結しました。

生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）でも注目される生物多様性の損失は、今後10年で最も急速に悪化するリスクのひとつとも言われ、気候変動とも並ぶ地球環境についての世界的な重要課題となっています。課題解決に向け、政府、企業を含むあらゆるセクターによる一層の取り組みが必要とされています。

※1 ネイチャーポジティブ：人と地球のために、生物多様性の損失に歯止めをかけ、自然を回復させること。COP15でも2030年までにネイチャーポジティブな社会を実現することが国際社会の使命とされ、そのための世界目標が定められた。

今回、関東圏の水源である利根川の源流部に位置するみなかみ町、その流域である丸の内エリアを中心に事業を営む三菱地所、環境NGOとして生物多様性の保全に高い専門性を持ち全国で活動する日本自然保護協会の3者が協定を結び、新たに生物多様性の保全、復元へ取り組みます。企業・行政・NGOが一体となって連携し、それぞれの知見を活かしながら、ネイチャーポジティブな社会の実現を目指します。

本取り組みには、企業版ふるさと納税制度（正式名称：地方創生応援税制）を活用し、三菱地所は、みなかみ町に「環境・生物多様性保全活動への支援」として、協定期間内に6億円の寄付を予定しています。世界的にも生物多様性保全へ大規模な資金動員が必要とされる中、同制度を活用した国内初の大規模な取り組みとなります。



▲三菱地所 執行役員専務 中島篤（左）、みなかみ町長 阿部賢一（中央）、日本自然保護協会 執行理事、事務局長 志村智子（右）

■主な取り組み

① 生物多様性が劣化した人工林を自然林へ転換する活動（約80ha）

管理の行き届いていない人工林は、自然の林よりも生物多様性が低いことがわかっています。この取り組みでは、そのような人工林を本来の植生等を踏まえた自然の林へ戻していくことで、生物多様性の保全と回復を目指します。みなかみ町内を舞台に10年で約80haを目標に活動予定です。自然林へ戻していく過程では、植樹や除伐などの手法を用います。また、イヌワシやクマタカなど、生態系の指標種にもなる動植物の保全と一体となった取り組みを推進します。

② 生物多様性豊かな里地里山の保全と再生活動

里地里山は、長い年月をかけて人と自然が関わり合い形成された日本の特長的な自然環境のひとつで、水田やため池、草地などの多様な環境に、多くの動植物が生息しています。しかし、耕作放棄や外来種の移入などに起因した里地里山の荒廃は、日本の生物多様性を保全する上で大きな課題となっており、みなかみ町も例外ではありません。本取り組みでは、みなかみ町の里地里山を舞台に、ため池の外来種防除などに取り組み、生物多様性豊かな里地里山の保全と復元を目指します。

③ ニホンジカの低密度管理の実現

ニホンジカの増加は、農林業への被害や森林生態系の破壊など、全国的な課題となっており、みなかみ町でも増えつつあることからその対策が急がれます。森林生態系のバランスを保ち生物多様性の損失を防ぐだけでなく、増えすぎからではその対策に膨大なコストと時間を要することから、科学的なモニタリングと効率的な捕獲技術の開発を急ぎ、ニホンジカの低密度管理を実現させます。

④ Nbs（Nature-based Solutions）の実践

①～③までの取り組みを通して、生物多様性を活かした防災・減災、水源涵養、獣害対策、持続的な地域づくりなど、Nbs^{※2}を実践していきます。具体的には、人工林を自然林へ転換する活動のなかで出た木材の利活用や、生物多様性豊かな里地里山で育まれた一次産品の高付加価値化、低密度管理実現に向けたシカ肉の利活用などの検討を進めていきます。また、自然の守り手を増やすべく、本取り組みへの市民参加や教育への活用の検討も進め、関係人口の増加や特色のある教育の推進にもつなげていきます。

※2 Nbs：Nature-based Solutions の略。「自然に根拠した解決策」と直訳され、社会課題解決におけるアプローチとして世界的に注目されており、国連環境計画でもその重要性が訴えられている。

⑤ 生物多様性保全や自然の有する多面的機能の定量的評価への挑戦と活用

生物多様性保全の定量的評価は、COP15においてもネイチャーポジティブな社会を実現していく上で重要課題となりました。本取り組みでは、研究機関や大学等とも連携し、国際的な先駆事例にもなり得る生物多様性の評価手法を開発して定量評価に挑戦します。評価は、適時開示やユネスコエコパークの定期報告などに活用し、世界に向けて発信していきます。

<活動イメージ>



▲管理の行き届いていない人工林のイメージ



▲除伐や植樹による転換活動のイメージ



▲再生途中の地域本来の自然林のイメージ

スターバックスコーヒー ジャパンとの取り組み

利根川源流から始める豊かな森林と人を育む連携協定



取り組みの概要

- ・森林整備の過程で搬出された木材の積極的な活用
- ・森林と人を繋ぐ架け橋としての店舗づくり
- ・森林の恵やその価値を伝えるための情報発信 など



目的

- ◆地域の森林資源や自然環境を活かした持続可能な社会の実現
- ◆荒廃した山林がもたらす社会的課題の解消 等

群馬県みなかみ町

Linkers (リンカーズ) の活動紹介



2025年7月24日

①里山整備



②資源の活用



③関係人口創出



これらの活動に、地域と連携して取り組む

- みなかみ町内で40～70歳代の18名が活動
- 山林所有者のほか、農家や自営業者、観光業者や公務員など様々な立場のメンバーが参画
- 2017年（平成29年）3月に活動開始





自らが「林家（りんか）」となり、時代と時代を、
地域と地域を、人と人をつなぐ（Link）させる

（つなげる）役割 = **繋ぎ役** を担う人達

■活動開始のきっかけ

- 町が主催する林業研修会への参加がきっかけ
- それまで林業に直接関わるメンバーはなく、すぐ近くにある森林・山との距離は遠かった
- 「自伐型林業」は地域住民である我々自らが、主体的に継続して山林に関わりを持つ取組



■活動実績（森林山村多面的機能発揮対策交付金実績）

年度		H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024
活動期		第1期			第2期			第3期	
場所		布施、相俣地内			布施、須川地内			入須川地内	
活動	日数	28	45	52	30	36	46	36	40
	延べ人数	142	225	225	171	153	197	136	146
整備面積等	森林整備 (ha)	3.3	8.5	7.3	5.1	5.1	5.1	12.4	8.4
	竹林整備 (ha)	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0	0
	作業道(m)								300
交付金額(千円)		1,176	1,822	2,119	971	1,062	936	1,851	1,853
備品購入	チェーンソー	4	3	4					
	刈り払い機		4	1				3	
	薪割り機		1		1				
	その他			薪ストーブ			物置		





■伐採した木材の活用

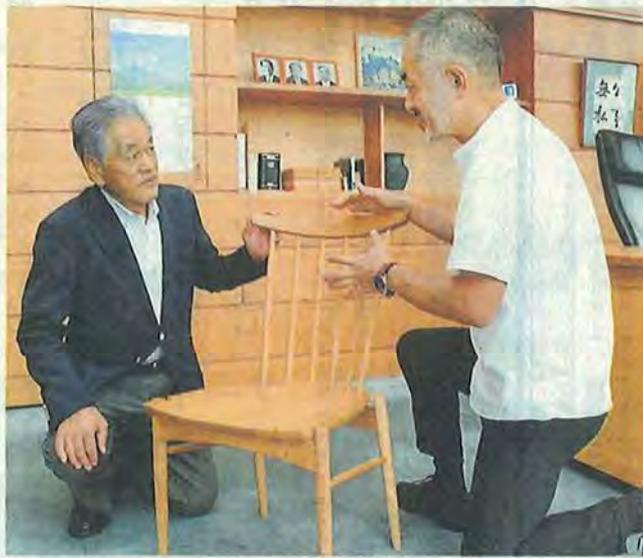
2020年 6月26日 上毛新聞

みなかみ町とオークヴィレッジ

町産広葉樹で 初の家具製品

みなかみ町と、家具製造などを手掛けるオークヴィレッジ（岐阜県高山市）は25日、みなかみ産の広葉樹を活用するプロジェクトとして初めて手掛けた家具製品「モリートチェア」を発表した。座面にクリ、それ以外にコナラを使用したデザインングチェアで、26日から同社直営店やネットショップで販売する。

「森と人をつなぐいす」をコンセプトに、自伐型林業によって切り出された木材を使用した。コナラは家具の材料として不人気だが、製材と乾燥で手間をかけ、コナラの持ち味であるしなりを利用した強度のあるいすに仕上げた。木組みで作られていて金属部品は使っていない。重量も4キロほどと軽く、持ち運びしやすい製品になることが分かった。山林の価値が上がっていくことを期待している」と喜んだ。同社の佐々木一弘商品開発部長は「100年先も同じ家具が作れるように、森林がきれいに手入れをされる循環をつくりたい」と話した。



すい。町役場の町長室で行われ

たお披露目で鬼頭春一町長は「町の広葉樹が素晴らしい

佐々木部長(右)からいすの説明を受ける鬼頭町長

1脚7万3700円。年間200〜300脚の販売を目指す。

町と同社は2018年に連携協定を結んでおり、広葉樹の活用によって地域活性化につなげる「森林を育む広葉樹産業化プロジェクト」に取り組んでいる。



■地域との連携①「みなかみツリーハウスプロジェクト」



ふるさとチョイス
プロジェクトを探す

寄附総額 7,170,655,995円

ふるさと納税ガイド

プロジェクト一覧 応援メッセージ

GCF*とは

ふるさとチョイス 応援支援

TOP > 過去実績 > みなかみ町の木材を使ったツリーハウスを、人と自然が共生するユネスコエコパークのシンボルとして建設したい！

みなかみ町の木材を使ったツリーハウスを、人と自然が共生するユネスコエコパークのシンボルとして建設したい！

カテゴリー：観光・PR

寄附金額 **2,905,000円**

96.8%

目標金額: 3,000,000円

達成率 **96.8%** 支援人数 **109人** 終了まで **受付終了**

群馬県みなかみ町(ぐんまけん みなかみまち)

お気に入り





世界が見つめる
花と緑の水源のまち
みなかみユネスコエコパーク

**花と緑の
ぐんまづくり
2019**
の みなかみ

ふるさとキラキラフェスティバル

8/31(土)・9/23(月)祝

メイン会場 たくみの里
サテライト会場 道の駅「水紀行館」/道の駅「矢瀬親水公園」

Minakami
Environment Museum

■木育（もくい）の推進





「^と利根川源流から始める ^{もり}豊かな森林と人を育む連携協定」
 森林資源や自然環境を生かした持続可能な社会の実現を目指し、
 社会的課題の解決に貢献するため、スターバックスと^みみなかみ町で協働しています。
 5月23日・24日に群馬県内のスターバックス全店のストアマネージャーが
 「森林(もり)を学ぶ森林整備体験会」に参加してまいりました。

突然ですが、「木を切ることは良いことだと思いますか？」
 みなかみ町の皆さんから「自伐採林業」についてお話を伺い、森に木が
 増えすぎてしまうと、「森の中に光や雨が届かず、下草が育たないなどの問題が
 生じており、森林の持つ多面的機能が低下してしまう」ということを教えて
 いただきました。実際に竹の伐採をお手伝いさせていただくことや自然を守る
 ことの大切さを体験することができました。休憩時に森林の中で飲んだ
 コーヒーは心も満たしてくれるものでした。

みなかみ町は...
 群馬県の最北端に位置する
 利根川源流の町であり、流域
 3,000万人の暮らしを支えています。

Linkers(自伐型林業グループ)
 森林や里山を良好な状態で
 価値あるものとして、次の世代に引き
 継ぐために、日々活動してまいります。

令和5年度リンカーズ連結決算

歳入	金額(千円)	明細	補助金	自主財源
①売上金	1,094	木材販売等919、薪販売(道の駅など)175		1,094
②補助金	1,851	森林山村多面的機能発揮対策交付金(国1,416、町435)	1,851	
③自己負担金等	335	会費85、食糧費自己負担131、備品自己負担114、雑入5		335
合計	3,280		1,851	1,429

歳出	金額(千円)	明細	補助金	自主財源
①人件費	985	賃金911、交通費74	875	110
②運営費	1,016		864	152
消耗品費	106	ソーチェーン、オイル、チップソー など		
安全装備	458	ヘルメット240、ブーツ168、グローブ50		
燃料費	36	ガソリン、軽油		
保険料	88	傷害保険		
修繕料	129	チェーンソー、薪割機修繕		
借上料	107	バックホウ、ユニック、軽トラック借上		
雑費	92	報償費、負担金、通信運搬費、講師謝礼 など		
③備品購入費	302	刈り払い機×3台	112	190
④食糧費	258	昼食、懇親会 など	0	258
⑤山主還元金	392	木材販売の約半額を山主に還元	0	392
合計	2,953		1,851	1,102

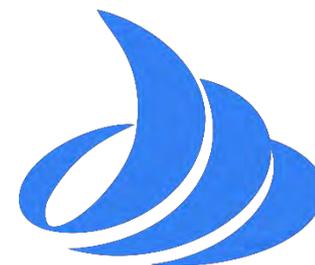
樹種	材積	金額	単価
クリ	3.6m ³	72,050	20,265
ケヤキ	0.7m ³	4,620	6,761
コナラ	16.4m ³	516,450	31,426
サクラ	0.9m ³	12,210	13,743
スギ	24.0m ³	240,000	10,000
総計	45.6m ³	845,330	18,554

単年度収支	金額(千円)	明細	補助金	自主財源
合計	327	歳入－歳出	0	327

我々の活動が、地域の課題解決にも貢献



連携



みなかみ町

【経済】

- ・ 地域資源を活用した産業振興
- ・ 地域内での経済循環
(エネルギーとしての活用など)

【環境】

- ・ 森林・里山整備の促進
- ・ 山林の価値向上
- ・ 鳥獣害の軽減
- ・ 地球温暖化防止

【社会】

- ・ 地域コミュニティの強化
- ・ 地域に根差した教育の推進
- ・ 健康寿命の延伸
- ・ 雇用創出による定住促進
- ・ 生活満足度の向上
(みなかみらしい生活様式)

活動を繋いでいくために



資源の有効活用⇒資金の確保

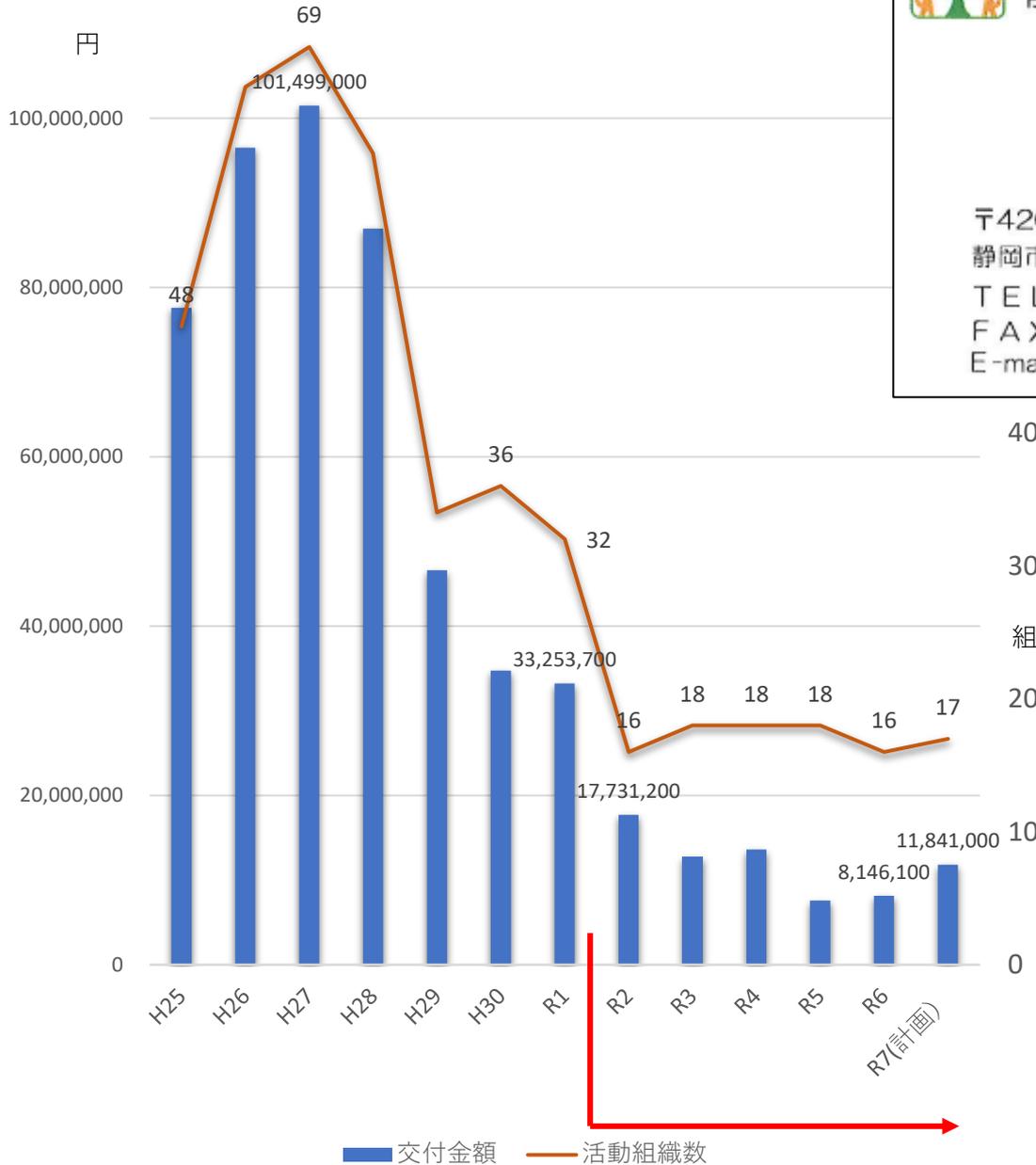
技術の向上⇒安全第一

無理なく楽しく



ご清聴ありがとうございました

交付金額と活動組織数の推移



公益財団法人
静岡県グリーンバンク

長谷川 剛司

〒420-0853

静岡市葵区追手町44番地の1 静岡県産業経済会館7階

TEL : 054-273-6987

FAX : 054-255-6495

E-mail : s-green@greenbank.or.jp

40 7/1から嘱託職員、週3日勤務

R07体制
 諸田 (常務理事・時間給) 約 85日/年
 長谷川 (嘱託・専任) 約150日/年
 組織 青野 (嘱託・時間給) 約 12日/年

グリーンバンクは 緑の応援団

—グリーンバンクの主な事業—



街に花と緑を増やす事業



豊かな森と緑を育てる事業



緑の募金事業

など

約2億円、職員8人

高野(こうの)の森保全の会

代表者 高野 通孝

所在地 南伊豆町加納

活動理念・目的

先祖代々の森林を地域住民と都市住民の絆として地域の活性化を進め、**祖父がいたころの手の入った森林**に戻す。

活動場所

南伊豆町加納

活動内容

作業道の再生
風倒木・枯損木の除去、雑草・木の刈払い



R3初回調査

見通し距離：8.8m



R5 3年次調査



	R03	R04	R05
里山林保全 (ha)	1.2	4.2	3.7
侵入竹除去・竹林整備 (ha)			
森林資源利用 (ha)			
森林機能強化 (m)	400		
関係人口創出・維持			
資機材・施設の整備			

目標

44m

結果

45.7m

達成率

105%

(NPO) 猪之頭振興協議会

代表者 高野 和作

所在地 富士宮市猪之頭

活動理念・目的

森林整備と**木材を薪として活用**し、資源の有効活用、雇用創出、地域振興の一助とする。

活動場所

富士宮市猪之頭区内

活動内容

雑草の刈払い、間伐、枯損木の整理、薪づくりほか

	R03	R04	R05
里山林保全 (ha)			
侵入竹除去・竹林整備 (ha)			
森林資源利用 (ha)	1.1	1.1	1.1
森林機能強化 (m)			
関係人口創出・維持			
資機材・施設の整備	チェーンソー	薪保管場所	

目標

60m³

結果

65.96m³

達成率

109.9%



人工林、天然林を間伐し、薪にして、**オートキャンプ場、ピザ用**等に販売している。

代表の中山さんの思いに賛同した市民が主体

西山桜の郷きまま会

代表者 中山 敏治
所在地 掛川市上西郷

活動理念・目的

栗が岳西側の森林・歩道整備を行う。

活動場所

掛川市初馬

活動内容

間伐、下刈り、歩道整備



初回モニタリング調査

	R04	R05	R06
里山林保全 (ha)	2.3	2.0	2.0
侵入竹除去・竹林整備 (ha)			
森林資源利用 (ha)			
森林機能強化 (m)			
関係人口創出・維持			
資機材・施設の整備		チェーンソー	チェーンソー



極相林に遷移している森林を止めたい！

今後：活動タイプを「森林資源活用型」に変更して活動を継続

西山桜の郷きまま会

代表者	中山 敏治
所在地	掛川市上西郷

里山林タイプでの活動結果 (130 い 18)



着手前
胸高断面積
88㎡/ha

3年後の目標
78㎡/ha



3年後
胸高断面積
78㎡/ha

目標達成率
100%

里山林タイプでの活動結果 (130 は 1)



着手前
木の本数
高 木：5本
亜高木：25本
低 木：20本

3年後の目標
高 木：5本
亜高木：25本
低 木：20本



3年後
木の本数
高 木：5本
亜高木：10本
低 木：0本

目標達成率
100%

落合滝ノ平保全会

代表者 宮川大輝

所在地 下田市箕作

活動理念・目的

宝珠寺山門が、「下田認定まち遺産」に認定されたことで、山門を見学する人が増えたので、山門を取り囲む**荒れた山林を整備**し、景観を改善する。

活動場所

下田市落合

活動内容

整備: 雑草木の刈払い、ツル切ほか
活用: 土留め、薪



孟宗の故事
雪中の筍

初回モニタリング調査の結果、シイを主体とした森林であった。初年度は倒木等の整理を行うが、2年目の活動について、アドバイザーの助言を受けた。

番号	樹種	胸高直径(cm)	胸高断面積(m ²)
1	シイ	24	0.045
2	コナラ	31	0.075
3	コナラ	21	0.035
4	コナラ	21	0.035
5	シイ	10	0.008
6	シイ	7	0.004
7	シイ	10	0.008
8	シイ	24	0.045
9	シイ	12	0.011
10	シイ	6	0.003
11	ヒノキ(枯れ)	7	0.004
12	シイ	9	0.006
13	ツバキ	7	0.004
14	シイ	6	0.003
15	コナラ	22	0.038
16	シイ	23	0.042
17	コナラ	10	0.008
18	シイ	6	0.003
19	シイ	12	0.011
20	シイ	10	0.008
21	シイ	28	0.062
22	シイ	26	0.053
23	シイ	10	0.008
24	シイ	8	0.005
25	シイ	8	0.005
26	シイ	6	0.003
27	アラカシ	6	0.003
28	ツバキ	5	0.002
29	シイ	10	0.008
30	コナラ	23	0.042
31	シイ	10	0.008
32	イタヤカエデ	7	0.004
33	イタヤカエデ	5	0.002
34	アラカシ	5	0.002
35	シイ	21	0.035
100㎡当たり胸高断面積合計 (m ²)			0.63

事業費

436.8千円

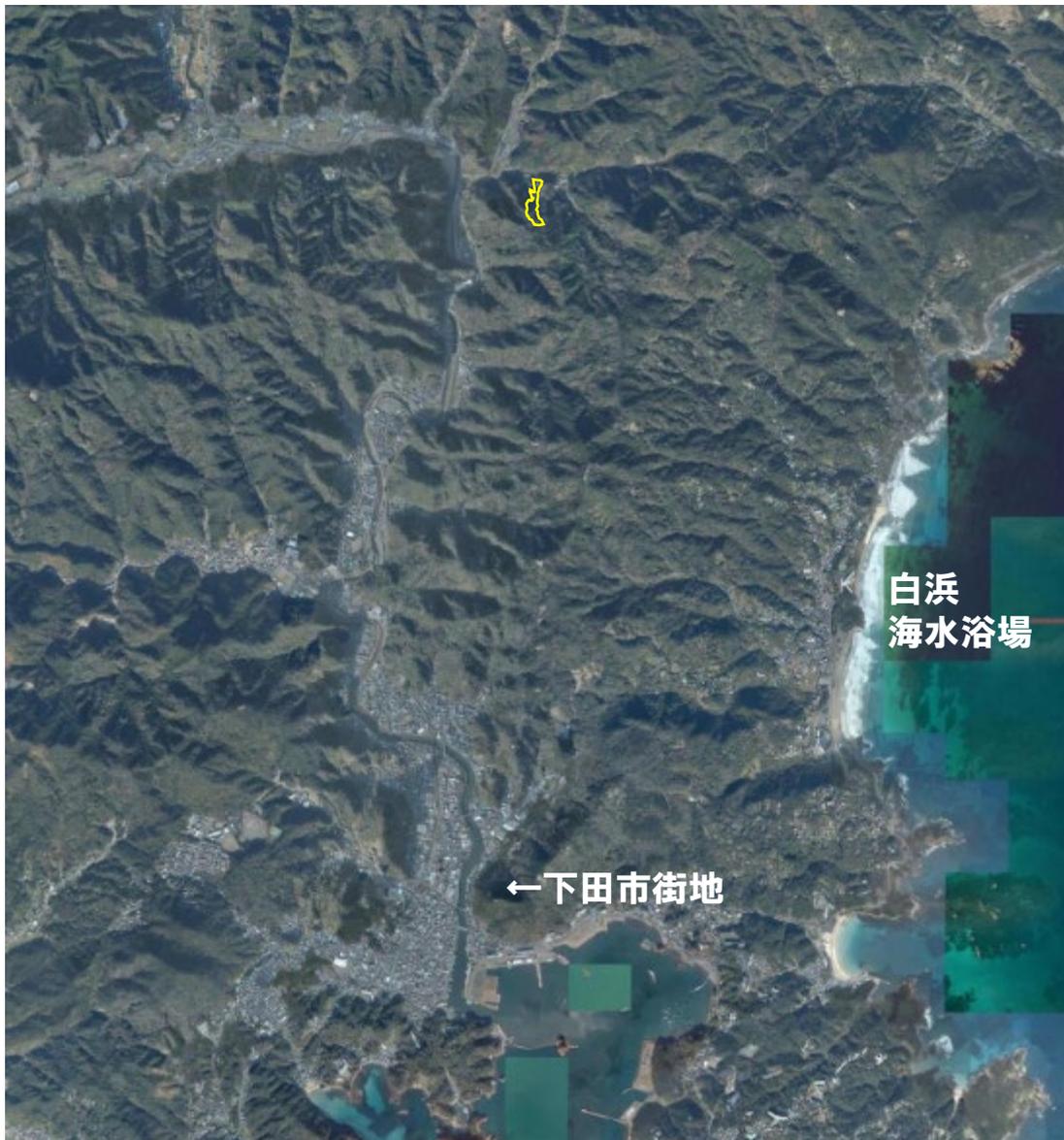
交付金額

436.8千円

落合滝ノ平保全会

代表者 宮川大輝

所在地 下田市箕作



胸高断面積調査
初回調査
0.63m²/100m²

鈴木礼アドバイザー (R06. 7. 25)

伐採木の選定方法

- ・ 亜高木層のシイを間引く提案があった。また、掛かり木回避や伐採予定木の印付け等の助言があった。

土壌流出対策

- ・ 下層植生が乏しいことから、伐採木等は等高線に沿って集積し、隙間は枝葉で塞ぐ等の助言があった。

シカの食害対策

- ・ 植生でのコントロールは難しい、忌避剤散布も効果期間が短いため、柵で囲うのが良いとの提案があった。



2年目終了後
0.59m²/100m²

目標達成率
57%

目 標
0.56m²/100m²

県・市町とともに現地指導を実施

毎年、全の活動組織を回りたいが、
諸々困難である。

活動組織名	活動前						活動中・後				
	月日	県	市町	アドバイザー	GB	受託者	月日	県	市町	GB	受託者
一條竹林整備組合							1/17				1
西伊豆古道再生プロジェクト	7/24		1	1	1	1	1/17		1		1
伊豆森林組合	7/25	2	2		1						
落合滝ノ平保全会	7/25	3	1	1	2						
鈴木造園山林部							10/18	2		1	1
澤田鉄筋(株)奥野の会							1/12				1
合同会社アラハラスヤッコ	7/24		2	1	1	1					
ふじのみや森風クラブ	10/2		1		2	1					
あしくぼ竹取物語											
滝谷里山保全の会											
経心の森保全の会							11/29	1	1	2	1
NPO法人 伊久美・楽山舎山の会											
中里ムーミン村							12/13			1	1
認定NPO法人時ノ寿の森クラブ							1/16				1
NPO法人里山再生クラブ							1/16		1	1	1
西山桜の郷気まま会							1/23		1		1
	5	2	5	3	5	3	9	2	4	4	9

「活動前」は林況とモニタリング調査方法の確認等、「活動中・後」は活動の実施状況の確認等を実施。

アドバイザーの派遣（10組織・12回）

<p>安全講習</p> <p>緑の雇用指導員 等に依頼</p>	<p>滝谷里山保全の会 落合滝ノ平保全会 あしくぼ竹取物語 ふじのみや森風クラブ 中里ムーミン村 西山桜の郷きまま会 認定NPO法人時ノ寿の森クラブ 合同会社アラハラスヤッホ</p>	<p>熊平智司 高橋幸村（丸高ティーティー） 宮本卓明 片平有信 宮本卓明 片平有信 熊平智司 鈴木礼（森ラボ）</p>
<p>モニタリング調査</p>	<p>合同会社アラハラスヤッホ 西伊豆古道再生プロジェクト</p>	<p>鈴木礼（森ラボ） 高橋幸村（丸高ティーティー）</p>
<p>森林施業</p>	<p>落合滝ノ平保全会 澤田鉄筋(株)奥野の会</p>	<p>鈴木礼（森ラボ） 高橋幸村（丸高ティーティー）</p>



熊平さん



高橋さん



片平さん



鈴木さん

地域協議会の持続化に向けて

ホームページ以外の周知はしていないが、現状では毎年数件の問い合わせがあり、採択に結び付いている。

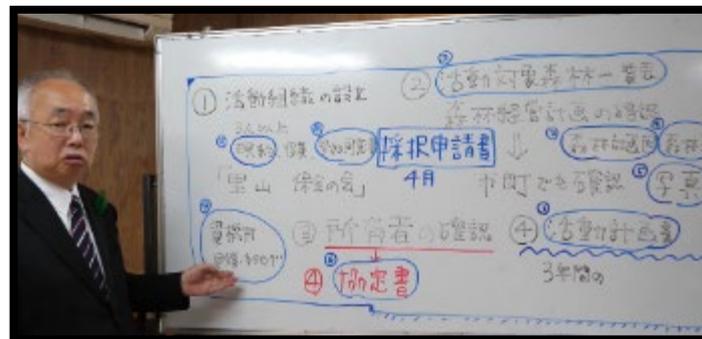
R07：新 規 3活動組織

R08：希望有 4活動組織

今年度は、**希望有等の活動組織を対象とした説明会**を、**10月頃にオンラインで実施**したいと思っている。

今までは時間の余裕がなくできなかったが、最初の一步が肝心である。

R05に活動組織向けのスタートアップ動画を作成し、ホームページにアップした。



活動組織設立から採択申請までを動画で解説

採択決定の円滑化に向けて

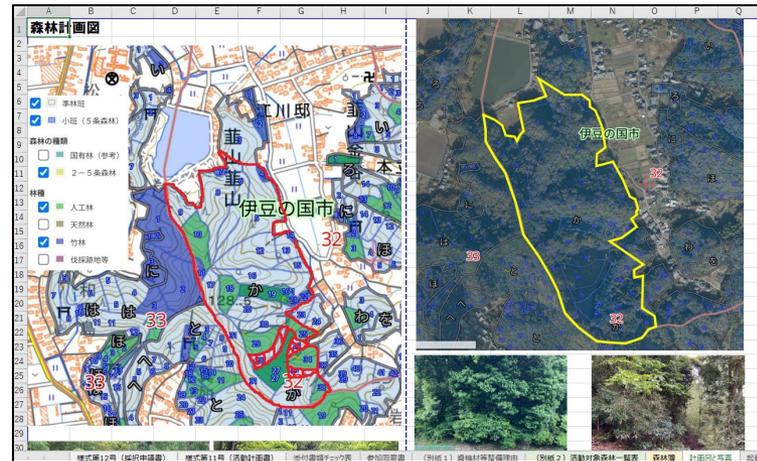
採択申請書はエクセルでの提出を基本としている。

A B C D E F G H I J K L M N O P															
(様式第12号)															
令和7年4月25日															
公益財団法人静岡県グリーンバンク 理事長 鈴木一雄 様															
活動組織の所在地		伊豆の国市葦山山木708													
活動組織の名称		江川荘													
代表の名称、代表者氏名		代表 岩田 榮													
令和7年度 里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金に係る採択申請書 (初年度・次年度・最終年度)															
里山林活性化による多面的機能発揮対策実施要領(令和7年3月31日6林整森第288号林野庁長官通知)別紙のⅢの第4の4(1)に基づき、下記のとおり里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金の採択を申請する。															
1 ページ															
1. 活動組織名 江川荘															
2. 協定の対象となる森林の位置(市町名・大字を記載する。) 伊豆の国市葦山葦山字平山															
3. 担当者名・電話番号(連絡がとれる担当者及び電話番号を記載) 関係書類の郵送先住所 担当者氏名(フリガナ)															
様式第12号(採択申請書) 様式第11号(活動計画書) 添付書類チェック表 参加同意書															

A B C D E F G H I J											
里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金に係る活動計画書											
1. 活動組織名 江川荘											
2. 活動組織の事務所の所在地 伊豆の国市葦山山木708											
3. 取組の背景 対象森林は、葦山駅から2kmほど離れた里山です。高齢化により山に足を踏み入れ、整備をしてくれる方が本当に少なくなりまして、今では雑木林に竹が侵入をし始め、山道には草が生い茂り、支障木も生えていて歩きにくい山となってしまっている。 山林を整備することで、火災が起きた場合のリスクを軽減し、被害を最小限に抑えたい。山林の資源(山の幸である山菜、竹の子、薪の採取)を利用し易くする。かなり広い面積の森林なので、整備には長期に渡るかと思っております。その整備のため、この交付金を活用させていただきたいと思っております。											
本交付金の活用に至った背景											
地元の自治体や自治会等地域のニーズへの対応 家の裏の竹について、早期に伐採してくれという話があり、その場所も活動地域に入れている。 当該地域の行政区から山林整備をやって欲しいという声も多い。											
地域の活性化への寄与 竹灯籠祭りがあり、そのイベントに竹の提供をしようと考えている(昨年のイベントでは、担当者である私が個人的に協力し、竹の伐採搬出を行っている)。踏み入れやすい山にすることで、地域の方が竹の子、山菜等を行りに行きやすくなれば、新たな山林の利用が見出せるかもしれないと期待している。											
4. 取組の概要 雑草木を刈払い、侵入竹や支障木等を伐採し、良好な里山として管理する。 あわせて、里山林の資源を竹炭・竹パウダー、しいたけ原木、薪、木炭など加工・販売する。											
様式第12号(採択申請書) 様式第11号(活動計画書) 添付書類チェック表 参加同意書(別紙1) 裏紙											

A B C D E F G H I										
里山林活性化による多面的機能発揮対策 資機材等整備予定一覧・理由書 別紙1										
活動組織名: 江川荘										
番号	物品・品名等名称 規格	数量	単価	単価の採択年度	次年度	最終年度	事業費(円) (内交付金、円)	整備理由・利用計画		
1	草刈機 ゼノア BCZ275GL-DC	1台	105,380				105,380 (52,600)	雑草木の刈払いで使用 柄のロングハンドルを選択		
2	草刈機 ゼノア BCZ315L	1台	99,660				99,660 (49,800)	雑草木の刈払いで使用 錆気量の少ないものを選択		
3	チェーンソー ゼノア GZ3750EZ16SP	1台	117,700				117,700 (53,300)	中盛木の伐採 間伐等で使用 バーの長さがあるものを選択		
1 ページ										
様式第12号(採択申請書) 様式第11号(活動計画書) 添付書類チェック表 参加同意書(別紙1) 裏紙										

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T																										
活動対象森林一覧表																										
活動組織名: 江川荘													別紙2													
区分	林班	林号	所在地 西町名 大字 地番	面積(ha)	所有者氏名	状況 状態 地目	年度別活動タイプ(メインメニュー)	サブメニュー・機能強化(m)	備考																	
							最初の採択年 R7年度	最終年度 R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度	備考
5	32	か	4	0.09		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		竹炭 セクク
6	32	か	5	1.70		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
7	32	か	6	0.81		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
8	32	か	7	0.09		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		竹炭 セクク
9	32	か	8	1.63		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
10	32	か	9	0.58		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
11	32	か	10	0.78		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		人工林 ヒタ
12	32	か	11	0.13		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		竹炭 セクク
13	32	か	12	1.32		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
14	32	か	13	0.45		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
15	32	か	14	0.08		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		竹炭 セクク
16	32	か	15	0.31		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
17	32	か	16	1.24		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
18	32	か	16-1	0.33		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		人工林 ヒタ
19	32	か	17	0.51	江川由紀子 江川靖子 江川文子 江川麻子	森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ
20	32	か	18	0.52	伊豆の国市 葦山葦山 572-1	森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		人工林 ヒタ
21	32	か	19	0.54		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		人工林 ヒタ 計155,0.23
22	32	か	20	0.83		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		天然林 カサカサ 計40,0.27
23	32	か	21	0.06		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		竹炭 セクク
24	32	か	22	0.11		森林資源活用	森林資源活用	森林資源活用																		竹炭 セクク
様式第12号(採択申請書) 様式第11号(活動計画書) 添付書類チェック表 参加同意書(別紙1) 裏紙 採択決定要領(別紙2) 活動対象森林一覧表 森林管理計画書(別紙3) 資機材等整備予定一覧表																										



同じ構図の写真が撮れない。

工夫したこと：① 撮影方向を明確にするため、中心木に撮影場所の番号札を付けた。
② 撮影する際に背中にする木にピンクテープを巻いた。

それでも 森林組合職員等と違って、活動組織の方々はこうしたことは素人である。



良

要改善

- **5年間担当したが、思い違いをしていること等が、多々あるかと心配している。**
- **活動組織との連絡等はメールのやり取りを基本としているが、できるだけ早く対面で会って、人となりを確認する。**
- **回答が遅い活動組織があるので、やっきりする。**
- **人格のない社団等の場合、どこまで組織運営の確認をすべきか悩んでいる。**
- **今年度、活動組織と協議して複業実践型をやることにしたが、ハードルが高いと感じている。断念させれば良かったと強く反省しているが、後続く人たちのモデルになればと思い頑張る。**

構成員一人当たり70日：23日/月で割ると約3月（本業圧迫を心配、猛暑も）

3年間の交付額：529,000円/ha（2割間伐、原則搬出⇒高蓄積林だと）

森林整備事業 車両系・手造材：530,000円/ha（50～60m³の他単価を基に想定）

R7 里山保活性化による多面的機能発揮対策交付金事業

協議会の取り組み

安全対策 と 資源活用 について

長崎森林・山村対策協議会

佐藤 祐樹

次 第

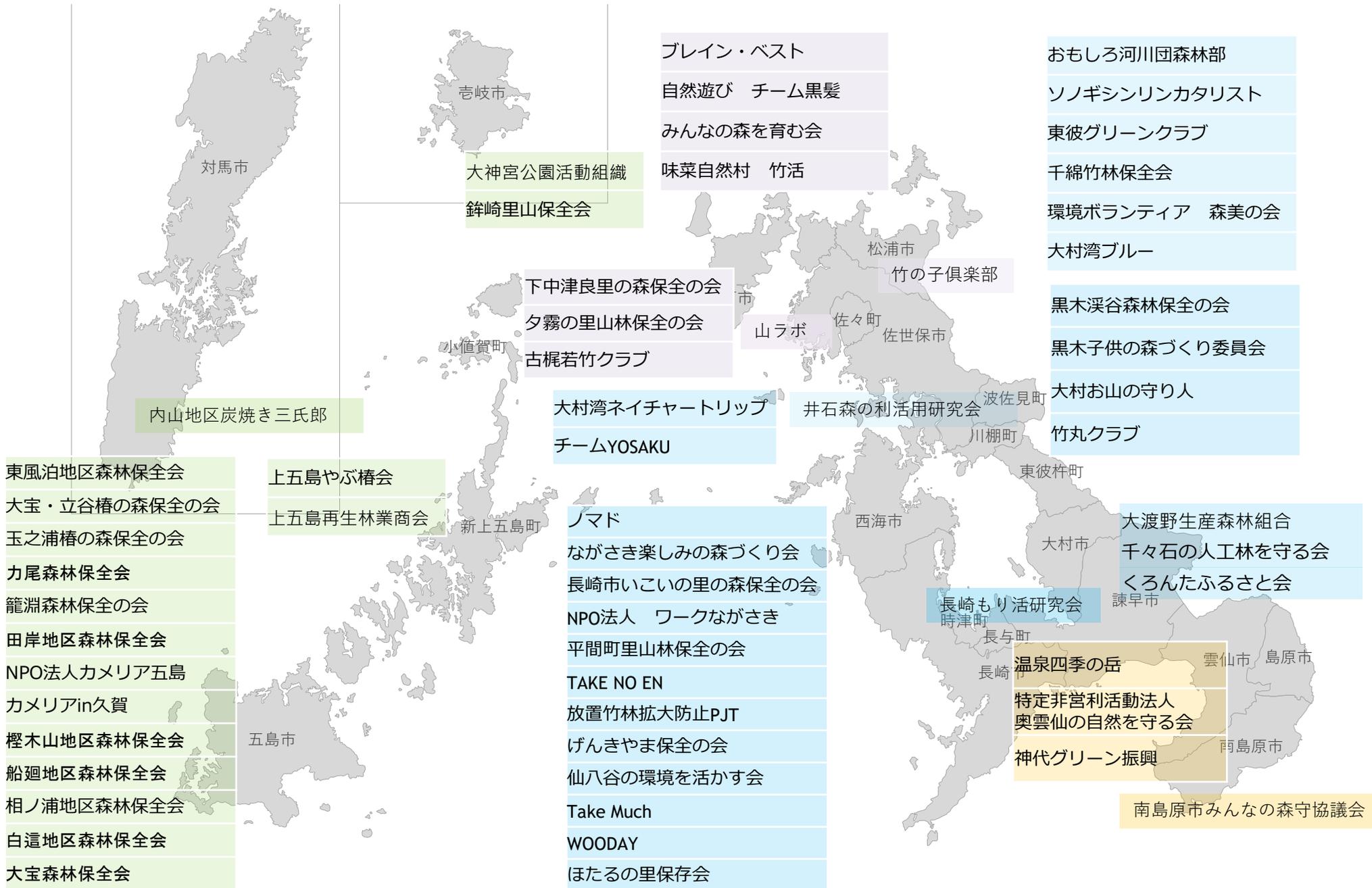
1.安全講習会実施内容

- ・ 事故事例
- ・ ヒヤリハットの共有
- ・ 安全な作業の為に

2.森林資源活用意見交換

- ・ 活用事例
- ・ 森林資源の活用意見交換とりまとめ

R6 長崎県の活動状況 60団体 ※里山林41 竹林21 資源6



R7年度 安全講習会の実施 10地区



2025年

林業労働災害（死亡災害）速報一覧

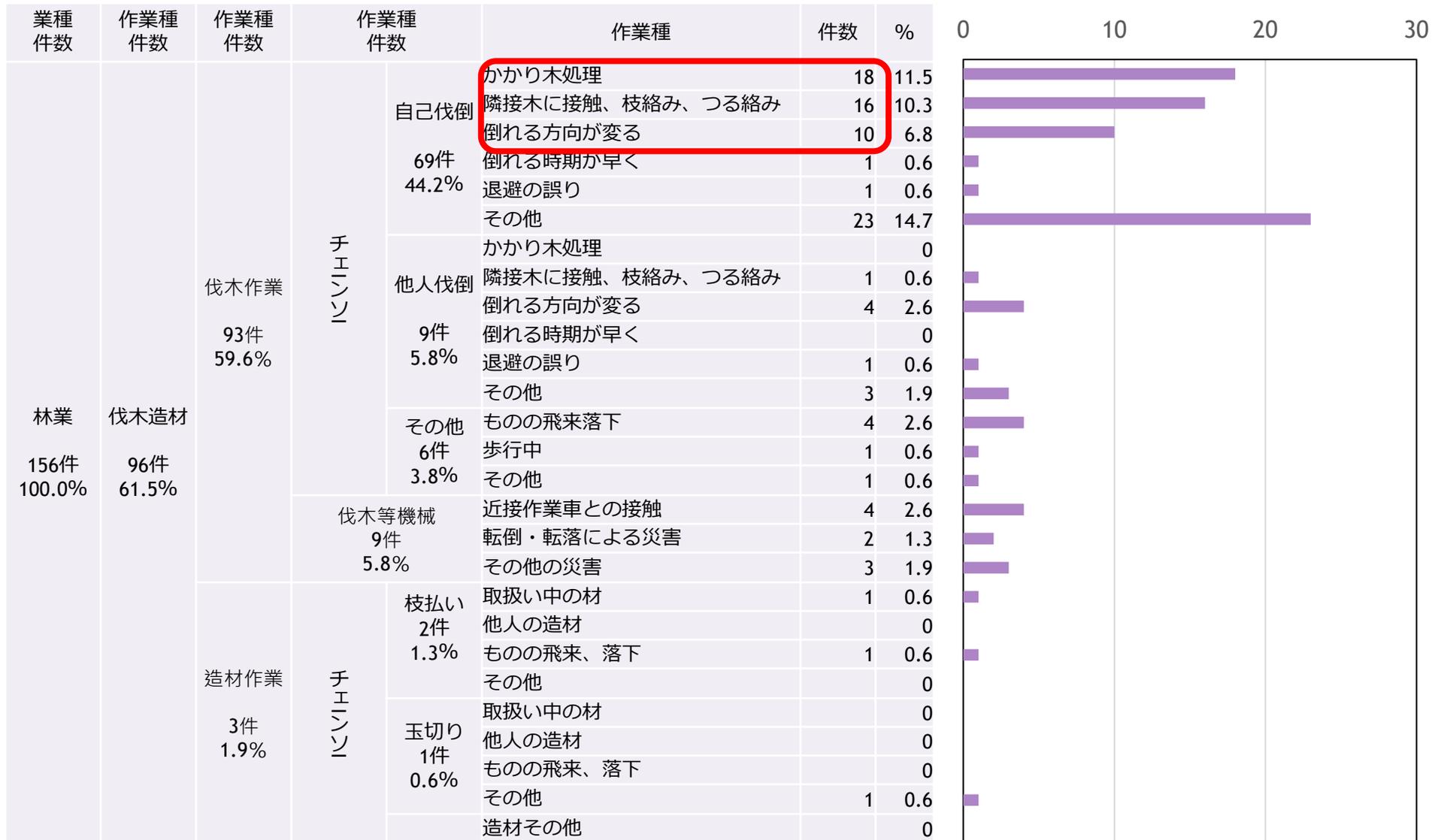
No.	県名	発生日	発生状況
2025-7	北海道	2025年02月20日	<u>伐倒作業中、伐倒木が裂けて激突した</u>
2025-6	群馬県	2025年02月05日	<u>伐倒作業中、かかれた木を伐倒しようとして幹折れし、かかり木とともに落下して激突された</u>
2025-5	熊本県	2025年02月04日	<u>枝打ち中、伐倒木に激突された</u>
2025-4	山口県	2025年01月25日	<u>伐倒作業中、伐倒木に激突された</u>
2025-3	北海道	2025年01月08日	<u>伐倒作業中、外れたかかり木に激突された</u>
2025-2	長崎県	2025年01月07日	<u>伐倒作業中、伐倒木の近くで倒れているのが発見された</u>
2025-1	北海道	2025年01月07日	<u>集材作業中、グラップル機で引き上げようとした伐倒木に激突された</u>



林業・木材製造業労働災害防止協会

林業における作業別死亡災害（令和元年から令和5年）

件数



事故事例

〇〇の会 会員：地域の仲間10名

<活動>

- ・スギの間伐を実施

<事故>

- ・かかり木がはずれ、足へ直撃し下腿骨折 手術後2か月入院

<原因>

- ・**元玉切**を実施し、かかり木の伐倒方向が変化

<改善策>

- ・技術の習得
- ・禁止事項の徹底

ヒヤリハットの共有

1 ヒヤリハット

2 原因

3 対策

ヒヤリハット事例

ヒヤリハット	原因	対策
人工林の間伐作業中、根元が跳ねて顔に当たりそうになった。	退避しなかった。近くにいた。	退避場所を事前に確認すること。
竹を伐って引き抜く時に枝等がはねて目に当たりそうになった。	子供などはゴーグルを嫌がるのでつけてなかった。	ゴーグルがなければメガネをつける。
下から見ると細いような枝も、落下すると重量があって驚いた。	木は軽いイメージがあったのでケガをするイメージがなかった。	初心者チェーンソーの安全な使い方と木の怖さを徹底して指導する。
ヘルメットを装着せず作業していたら倒れてきた竹に当たりそうになった。	竹林整備は蚊が多く、頭にネットを被るがヘルメットが入らないのでそのまま作業していた為。	必ずヘルメットを被る事。
かかり木の作業後、2~3分後に上から大きな枝が落ちてきた。	落下物がないか、よく確認してなかった。	上方を見て確認、班長など指揮をしている人に連絡する。
多人数だったので離れて作業していたつもりだったが伐った竹が隣の班まで倒れて来た事。	班分けはしたが作業距離の間隔が短かった。	最初に計画を立て、十分な距離をとって作業する。

安全な作業の為に

広葉樹伐採時の注意点

- 広葉樹の特徴
 - 枝張りがあり重心が読みづらい
 - 裂け上がりが起きやすい
 - 巨木や枯木が多い
 - かかり木になりやすい
- 指導ポイント
 - 重心を見極め、ロープ誘導
 - 裂け上がり起きやすい為、追いヅル切りも併用
 - 胸高直径30cm以上は伐採しない
 - 枯木の場合は、ロープ誘導で伐倒する
 - 枯れ枝が落下する可能性あり
 - 枝払い時に注意する
 - 伐倒前に周辺の除伐を徹底する

活動前の確認

1 作業中止の判断

1.強風、大雨、大雪、雷の発生の予想される時は作業を中止。

2 作業前確認

1.作業箇所を調査し、作業手順・範囲を確認

2.作業指揮者の選任

3.緊急連絡体制の確認

3 安全装備の確認

1.ヘルメット 2.防護メガネ 3.チャップス 4.機材の点検

必ず守って欲しい事項3つ！

* 上下作業の禁止

- ・ 斜面の上方で作業すると、丸太や岩などが落ち下方で作業している人に当たり怪我をする。

* 近接作業の禁止

- ・ 刈払機作業
5 m以上離れる。安全のために15 m以上。
- ・ 伐木作業
伐倒木の高さの2倍以上離れる。

* 余裕を持って作業

- ・ 急がない、考えて行動、足場の整理

3 森林資源の活用について

令和7年度森林ボランティア団体意見交換会



森林資源 大きく3つ + 1

広葉樹・ ・ ・ カシ、シイ、クヌギ、センダン
サクラ、カエデ、ツバキなど

針葉樹・ ・ ・ スギ、ヒノキ、マツなど

竹・ ・ ・ ・ ・ モウソウ、マダケ、ハチクなど

空間・ ・ ・ ・ ・ 木育、キャンプ、遊歩道

事例 ●タケノコの活用

千綿竹林保全の会 会員：地域の仲間7名

<活用>

- ・放棄竹林を整備しタケノコを生産
- ・収穫したタケノコはコンビニやJAへ出荷

<結果>

- ・1回3万円程度の利益
- ・地域の輪が広がり、自宅でコンニャクづくり体験等
- ・活動が楽しみ
- ・竹林の再生
- ・健康になる
- ・その他

事例 ※森林ボランティアでの活用

グループ〇班

<活用> ※どんな木をどう活用するか。

-
-

<結果> ※予想される結果。

-
-
-

意見交換

- ・ 樹種・活用方法 >

- ・ 結果 >

活用方法（一部伐採）

樹種	活用方法	結果
ヒノキ	ひのきの葉をよもぎ蒸しかハーブテント、薬草の化粧品の原料に。	ひのきの葉は漢方養生指導士等から需要がある。処分していた葉を活用して利益に繋がる。
竹	伐採した竹を割り民家の泥壁に使用。	実際に依頼を受けた。
竹	ティピー(円錐型のテント)づくり。竹ぼうきづくり。竹の子の皮の販売。	癒しの空間になる。箒や竹の子の皮の販売。
空間	作業道などを利用してバイクのオフロードコースを作る。又はトレイルランのコースとして利用する。	県内にオフロードコースは珍しいので需要がありそう。空間利用の一例。
スギ ヒノキ	間伐材で羽子板づくり。（3cm厚の30cm板をチェーンソーで製材）	学童から作ってほしいと要望があった為、実施予定。
竹	竹を組みハウス制作。チップパーで竹パウダーを作成。竹パウダーは発酵熱を作るので暖かいハウスができる。	冬でも暖かいハウスはカカオ等の栽培が可能。竹パウダーは色々な用途に使えるのでSDGsに繋がる。
竹	ポーラス竹炭づくり、幼竹メンマづくり。	活動で出た資源を活用したものを販売し、利益を生み、団体の維持費、経費とする。

令和7年度 里山林活性化による多面的機能発揮対策評価検証事業 スキルアップ研修 アンケート

この度は、令和7年度里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金事業 スキルアップ研修にご参加くださいまして、誠にありがとうございます。今後の運営に当たっての参考とさせていただきますので、ご記入賜りますようお願い申し上げます。なお、ご記入いただきました内容は、本事業に関わる目的にのみ使用させていただきます。

質問1～5は該当する□に✓印をご記入ください。記入済み用紙は、名札と一緒に 受付へお渡しく下さい。

1. 7月23日(水)「広葉樹林における整備・活用および安全管理等」の説明のご感想を教えてください。 <input type="checkbox"/> 大変参考になった <input type="checkbox"/> 参考になった <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまり参考にならなかった <input type="checkbox"/> 参考にならなかった
2. 7月24日(木)「施業現場での伐倒実演」のご感想を教えてください。 <input type="checkbox"/> 大変参考になった <input type="checkbox"/> 参考になった <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまり参考にならなかった <input type="checkbox"/> 参考にならなかった
3. 7月24日(木)「小林産業(株)様での製材見学」のご感想を教えてください。 <input type="checkbox"/> 大変参考になった <input type="checkbox"/> 参考になった <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまり参考にならなかった <input type="checkbox"/> 参考にならなかった
4. 7月25日(金) 前半「森林整備全般その他に関する情報・意見交換」のご感想を教えてください。 <input type="checkbox"/> 大変参考になった <input type="checkbox"/> 参考になった <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまり参考にならなかった <input type="checkbox"/> 参考にならなかった
5. 7月25日(金) 後半「フリーディスカッション」のご感想を教えてください。 <input type="checkbox"/> 大変参考になった <input type="checkbox"/> 参考になった <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまり参考にならなかった <input type="checkbox"/> 参考にならなかった
6. スキルアップ研修で取り扱ってほしい内容がございましたら、ご提案ください。
7. その他ご意見・ご感想がございましたらお願いします。(自由記述)

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

令和7年度 里山林活性化による多面的機能発揮対策評価検証事業 スキルアップ研修

7/23 グループワーク1 記録シート

※グループワークでの皆様のご発言内容を下の枠内にご記載ください。貴重な情報・ご意見として他の地域協議会と共有させていただきます。

広葉樹林を対象に活動を行う活動組織を指導するにあたって日頃の悩み・課題

(例:目標設定の考え方、モニタリング調査方法、4年目以降の森林管理、安全管理、資源活用方法など)

上記課題への対処方法

工夫点

令和7年度 里山林活性化による多面的機能発揮対策評価検証事業 スキルアップ研修

7/24 グループワーク 2 記録シート

※グループワークでの皆様のご発言内容を下の枠内にご記載ください。貴重な情報・ご意見として他の地域協議会と共有させていただきます。

自都道府県で生かせること

生かすために解決しなくてはならない課題

令和7年度 里山林活性化による多面的機能発揮対策評価検証事業 スキルアップ研修

7/25 グループワーク3 記録シート

※グループワークでの皆様のご発言内容を下の枠内にご記載ください。貴重な情報・ご意見として他の地域協議会と共有させていただきます。

森林整備全般、安全管理、書類・手続き事務その他について、活動組織を指導するにあたって日頃の悩み・課題

上記課題への対処方法

工夫点

令和7年度 里山林活性化による多面的機能発揮対策評価検証事業 スキルアップ研修

7/25 グループワーク4 記録シート

※グループワークでの皆様のご発言内容を下の枠内にご記載ください。貴重な情報・ご意見として他の地域協議会と共有させていただきます。

本交付金に関して他地域の意見や事例を聴きたい事柄